

『第2回 全国版子どもの集い・交流会』の参加者アンケート（結果）

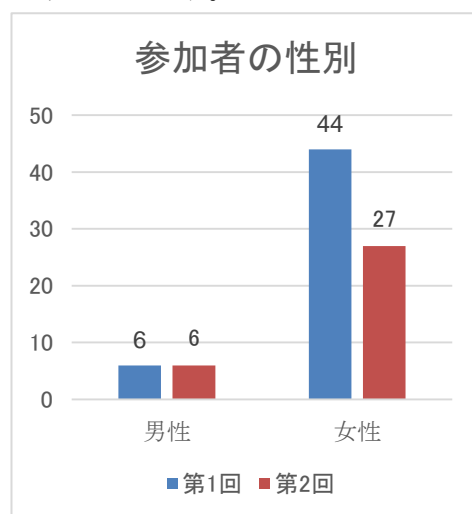
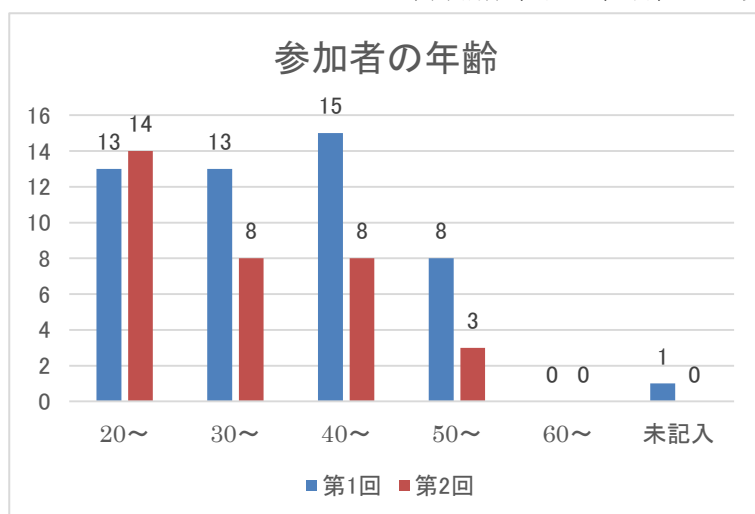
第2回 全国版子どもの集い・交流会にご参加いただき、ありがとうございました。

全国版 子どもの集い・交流会の参加状況やご協力いただきましたアンケートの結果を簡単にまとめさせていただきました。当日参加することができなかつた方も雰囲気だったんだなど感じとっていただけると…と、思っております。（アンケート回収率は、97.1%）

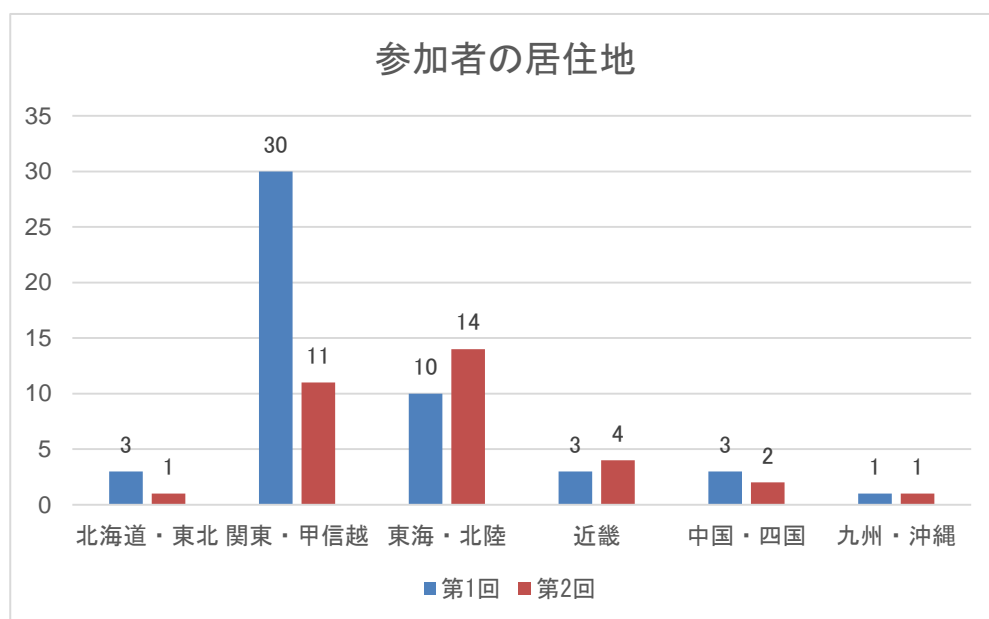
1. 参加者の概要

集いには、デモンストレーションとして前でトークしていただいた方も含め、子どもの立場の方34名の方にご参加いただきました。今年は、午前・午後の1日で開催し、参加の仕方を選べる形式にさせていただきましたが、午前の参加者は32名、午後の参加者は28名でした。

当日参加していただいた方の年齢構成、性別、居住地は以下のようになります。

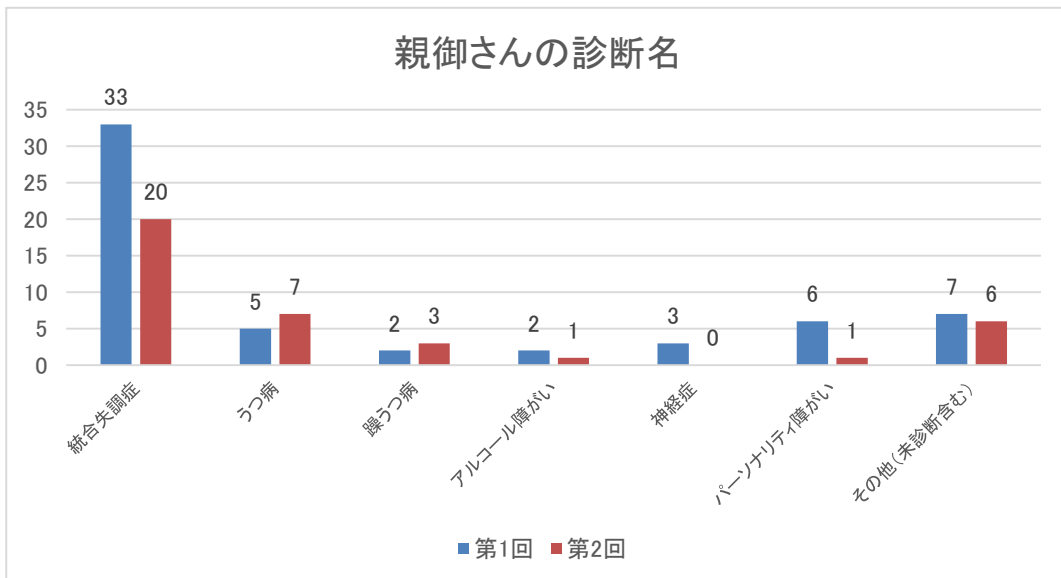


昨年は30代・40代の方の参加が多かったのですが、今年は20代の参加の方が多く、男女の割合も男性が少し増えてきました。



今年は名古屋での開催であったため、東海圏からの参加者が多かったですが、今年も北海道・東北～九州・沖縄の各地より多数の方にご参加いただきました。

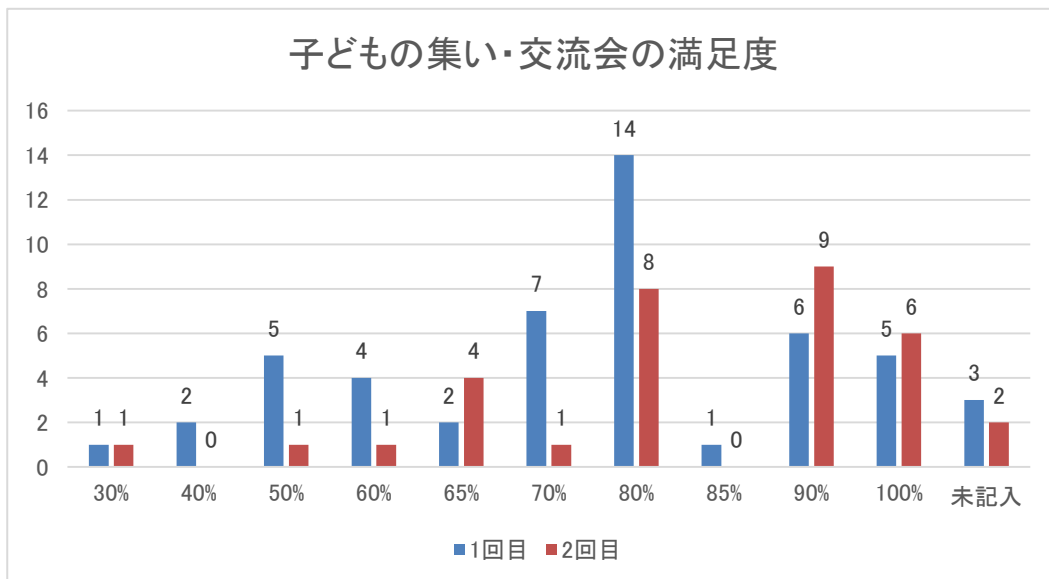
また、初回参加の方が19名、昨年に引き続き参加していただいた方が14名でした。



親御さんの診断名は、前回は統合失調症の方が割合的にも多かったのですが、今年は、うつ病や未診断と言われる方の参加も多くみられました。

2. 交流会の満足度

子どもの集い・交流会の満足度について 0~100 の数値 (%) でお聞きしたところ、以下のようにになりました。今年の平均値は 82.1 でした。



それぞれの点数をつけた理由は、以下のものが多かったです。

30~50%の理由：「もっと話したかった」、

「話が全員バランスよく回らない。話すよりもっと話が聞きたかった」

60~75%の理由：「聞きたいテーマの話が出なかった。グループのマッチングについて検討してほしい」、
「体験を語ることはできても、感情を語ることはできなかった」、
「統合失調症の親を持つ体験とその他の病気を持つ親の体験の接点を見出すことが難しかった」

「研究結果を聞いたことや子どもの参加者が話しやすい環境を作れたことは良いが、会の開放性についてはもう少し考えた方が良い」など。

80~100%の理由：「自分のことも話せて、他の方々の話もしっかり聞くことができた。参考になった」
「いろんな方と話すことで、たまたま親が病気ただけで、自分は特別で変わった人間ではないと思えた」

「私の気持ちを他の方に代弁していただいたようで、満足している」
「共感してもらえることがこんなに嬉しいことなんだと気づけた」
「皆さんの話や土田の発表の言葉がストレートに伝わってきて少しつらかった」
「～してはいけないという思い込みをなくす手助けになった」
「午前・午後のプログラムで交流もできて良かった」
「昼食時間も共通の立場ということで、参加者と話ができてよかった」
「研究結果のまとめは自分を客観的にみることでできて良かった」、
「サポート体制がしっかりしていて安心して参加できた」、
「ゲームがあったことで緊張せずにグループに入ることができた」
「午後のスタートの時、座る場所がなかったのが、配慮があると良かった」など。

3. プログラム構成について

今年度は、昨年の要望を受けてそれぞれがグループに分かれて語り合う場を設けました。そのため、午前を研究結果の報告+子どもメンバーのトーク、午後をグループでの語り+全体のまとめというプログラムとし、参加の仕方も個人で選べるようにしました。

流れについては、「午前のトークを参考にしながら午後グループで話すため、話しやすいと思った」、
「メリハリもついて良かった」という意見が多くありましたが、「午前・午後を通す方が良い」との意見もありました。

語りの場を設けたことについては、「語ることができ気持ちが楽になった」、「ゆっくり話せてよかった」、「忘れていた思いやうまく言葉にできないことを、他の人の語りから改めて感じることもできた」と良好な意見が聞かれました。

2部構成を取り、参加を選べたことに関して、「参加を選べられたのはとてもよかった」、「一日の日程だとじっくり交流できると思った」との意見をいただきました。

午前に午後のデモンストレーションを兼ねて、三重の会に参加したことのある方6名（男性2名・女性4名）に語っていただいたのですが、6名ともが母親が障がいを持つ立場だったため、「父親に障がいがある方の話も聞いてみたかった」という意見をいただきました。

4. その他

午後のグループ分けは、緊張をほぐす意味合いも含めて、ゲームで自己紹介をしながらグループ分けを行う方法を取りましたが、自分の聞きたいことが話題にならなかったグループもあり、「テーマごとに選ぶグループ編成」や、「同じような環境にいる人との交流」を希望される意見もいただきました。

今回の集いでは、全国で取り組まれている親の育児支援・子ども支援に関する情報を集めて掲示するなど、支援が拡大していけば…と願う主催者側の思いも伝えました。その流れもあったためか、全体のまとめのところで“子”の存在を社会に訴えていくことについて議論が交わされ、「今の状況を何とかしたい」、「社会を変えたい」という意見が出されました。アンケートにも社会に訴えていくことについてや「精神障がいの偏見をなくすために働きかけてほしい」という意見をいただきました。社会に訴えていくことについては、「オープンにすることを望まれる」記載もあった一方で、「やっと話すことができた・繋がることができた方など取り残される方もいるのではないかと危惧される意見もありました。

今後の要望としては、「自己価値・自己肯定感を高められる方法について学びたい」、「精神障がいについての講演会を取り入れてほしい」、「子どもが当たり前で相談出来る環境を作りたい」などの意見をいただきました。

*アンケートにご協力いただいた皆さま、ご協力にありがとうございました。